

神代小路地区全景



【国見展示館周囲の風景】

国見展示館は雲仙市国見町神代小路地区に所在します。小路地区は、国指定重要文化財「旧鍋島家住宅（鍋島邸）」を中心とする、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。江戸時代より続く武家町には、美しい矢竹の生垣や茅葺のお屋敷、長屋門や石垣など、当時の面影が残り、一歩足を踏み入ると日常の喧騒を忘れさせてくれます。また、保存地区の西側には中世神代氏の居城「神代城（鶴亀城）跡」の森が静かに広がります。

歴史と文化の息吹を感じる保存地区の一角に、木造平屋瓦葺の大きな建物が二棟並んでいます。旧神代村の中学校校舎は数十年の時を経て当時の姿を取り戻し、文化遺産として生まれ変わりました。

雲仙市歴史資料館

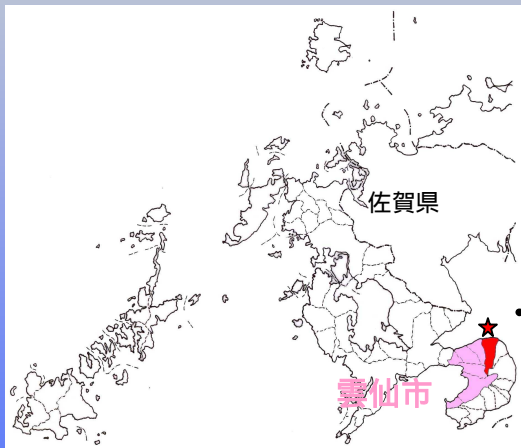
国見展示館

積み重ねられた時間・・・

静かに語りかける過去・・・

思い出と今が重なる教室で、
本物の歴史を刻み未来へとつなぐ

国見展示館での出会い。



【雲仙市歴史資料館 国見展示館へのアクセス】

- 自動車/長崎自動車道諫早ICより、国道34号線を経由し、国道251号を国見方面へ約40分。
- 島原鉄道/諫早駅より神代町駅へ約35分。
下車後徒歩約10分。
- 有明フェリー/熊本長洲港より多比良港へ約45分。
下船後、諫早方面へ車で約10分。



南側展示館入口

長崎県雲仙市教育委員会

「雲仙市歴史資料館 国見展示館」



北側展示館入口

刻まれた歴史 今、よみがえる。

昔懐かしい木造瓦葺の校舎は、旧神代村立神代中学校の校舎。古い柱や床板、波打った窓ガラスなど、昭和の時代へタイムスリップしたかのようです。

旧神代村立神代中学校は戦後間もない、昭和二三年に完成。当時は三棟の校舎に講堂、南側には広いグラウンド。多くの生徒たちがここで学び巣立っていきました。町村合併や学校統合の流れで、十数年で「学び舎」としての幕を閉じ、その後は繊維工場の倉庫などとして使われてきましたが、近年は使用されることもなく荒れた状態でした。平成十七年七月、国の重要伝統的建造物群保存地区選定に伴い、校舎も伝統的建築物と指定を受け、平成十九～二一年度において保存・改修工事をおこない、見事に当時の姿によみがえることができました。

平成二二年八月、歴史資料館として生まれ変わり、当時の学校の様子や農具・民具などを展示しています。

二棟残る校舎はそれぞれに違う内容の展示館として見学できます。

【南側展示館】

考古資料の展示館で、島原半島最古の石器（約三万年前）をはじめ、旧石器時代から現代に至る出土品をそろえており、「島原半島の人類の歴史三万年」を一気に駆け抜けることができます。また、発掘調査事務所も兼ねており、最新の発掘成果を見学することができます。



龍王（りゅうおう）遺跡の石器



高下（こうげ）古墳の装飾品



伊古遺跡の甕棺（かめかん）

【北側展示館】

旧神代村立神代中学校を復元・改修した校舎で、当時の建材を可能な限り再利用して、旧中学校を忠実に復元しています。「校舎自体が文化財であり展示品」です。内部の教室には「昭和の教室」の再現や民俗資料を展示しています。教室に並べられた机や椅子は、市内各小中学校で実際に使用されていたもので、歴史が刻まれた「本物」の展示品です。

教室は見学のほかイベントなどでも使用可能で、50人以上収納可能な教室もあります。会議や発表会・同窓会の会合等、利用をお待ちしています。



多目的教室



教室の再現



民俗資料

住 所 〒859 -1303 雲仙市国見町神代丙 178 番地 1
電 話 0957 - 78 - 2334
開館日 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
土・日は職員在館時には見学可能、要問合せ。
入館料 無料
北側展示館教室使用料は1時間200円、要問合せ。